

キャラクター名 プレイヤー名

シンドローム	エグザイル		ワークス	FHチルドレンB	カヴァー	アトランティスメンバー
	エグザイル					
オプション			年齢	15	性別	女
覚醒	生誕	衝動	破壊	初期侵食率	33	%
出自	天涯孤独	経験	奸計	邂逅	欲望	：生存

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	29
肉体	4	0	0			4	行動値	16
感覚	2	1	2			5	(非装備時)	16
精神	0	0	1			1	戦闘移動	21
社会	2	0	0			2	全力移動	42

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	4		RC	1		交渉		
回避	1		知覚			意志			調達		
運転			芸術			知識			情報	FH	1
運転			芸術			知識			情報		
運転			芸術			知識			情報		
運転			芸術			知識			情報		
運転			芸術			知識			情報		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
セルペンテ	射撃	5r+4		8+1d10		死神の針/コンセ
ヴィペラ	射撃	5r+4		8+1d10		死神の針/踊る髪/コンセ
テュボン	射撃	5r+4		10+15+1d10		ヒュドラ前提/死神の針/踊る髪/コンセ
奈落の手		0				マルチアタック

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品		合計装甲：	0	合計回避：	0
ロイス					
対象	感情(pos)	感情(neg)	タリス	消費	
遺産継承者	P	N			
破壊者	P	N			
”研究者”一色寵子	P 好奇心	N 猜疑心			
	P	N			
	P	N			
	P	N			
	P	N			
最大財産P:	4	残り財産P:			

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
コンセ(エグザイル)	2	2					-	
効果：								
死神の針	4	3	メジャー	視界	単体	射撃	-	
効果：	攻撃力+(Lv+*2)の射撃攻撃、同エン不可、対象のドッジダイス-2							
踊る髪	1	2	メジャー	武器	-	射撃	-	
効果：	1点でもダメージを与えるとバステ硬直付与							
マルチアタック	3	5	オート	至近	自身	自動	ピュア	
効果：	攻撃またはドッジの判定直後に使用、達成値+10、シナリオLv回							
ヒュドラの怒り	4	4	セットアップ	至近	自身	自動	100	
効果：	ラウンド間、メジャーアクションのダイス+3、攻撃力+(Lv*3)、暴走(回復不可)							
	★							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

「名前?……忘れた。ドナでいい。」

生まれながらのオーヴァード。物心ついた時からFHで破壊のための道具として過ごしてきたため、親のことも含め自分のルーツを何も知らない。いつからなのかはわからないが、両手が体から千切れていて自立しており、意のままに操ることができる。ただし、時間の経過とともにどんどん手だけが肥大化し、小さくすることが難しくなってきた。

◆Dロイス・戦闘スタイル
遺産継承者としての力と、破壊者の強大な力を持っていたが、今は遺産の力を失ってしまっている。FHとして活動するにあたって、破壊の力は大いに重宝されたが、所詮は道具でしかなく、ドナ本人を丁重に扱われたことはない。変幻自在の髪を蛇のようにうねらせて敵を貫通し、相手を硬直させることから、FHに籍を置いていた時は「メドゥーサ」と呼ばれていた。UGNで研究をされていたときから「エキドナ」と呼ばれるようになり、特に一色寵子が「ドナ」とよく呼んだため、今ではそう名乗っている。髪に攻撃に加え、体から分離している肥大化した手によって、敵の体を鷲掴みにして退路を塞ぐ、破壊一辺倒の戦闘スタイル。

◆経歴
物心ついた時から訓練を受け、比類なき破壊者としてFHで猛威を振るっていたが、特に何かを成し遂げたいという信念があってセルにいたわけではない。むしろどんなに活躍してもただの道具の一つでしかなく、まとも人間として接してもらったことがなく、漫然とした不服を常に抱えていた。破壊者としての力だけでなく、遺産継承者でもあることが広く知られ始めると、彼女の力を狙う組織が増え、数多くの敵の奸計に振り回されながら、FHチルドレンとしての活動ですらまともにはできないほどの逃亡生活を送ることとなる。所属セルもまた、彼女を守るわけではなく、適性組織からの奪還後に監禁を試みるなど非人道的扱いをしており、最早誰も守ってはくれないと悟り独りで戦う決意をした。しかしそれでもいずれ限界を迎え、ボロ雑巾のようになっていたが、一人の女性から手を差し伸べられた。